

延岡 KODOMOMIRAI

こども未来

創造機構

目次

《第1章 設立の背景》	2
社会環境の変化	3
問題認識	7
《第2章 設立に向けた取組》	8
「のべおかこども未来フォーラム2020」	9
延岡こども未来創造機構検討委員会	11
これまでの取組	17
法人設立へ	27
《第3章 機構について》	28
運営委員会	29
アドバイザー	30
延岡こども未来創造機構の考え方	31
延岡こども未来創造機構の理念	32
実現したい未来	33
私たちの使命	34
遊びと学びプロジェクト	35
共育プロジェクト	39
体験プロジェクト	43

第1章 設立の背景

社会環境の変化①



答えのない社会を乗り越える「生きる力」

近年、多様化が進み、変化の激しい社会においては、答えの決まっていない環境に直面することが多い時代となってきました。

こうした中で、課題を乗り越えていくためには、
■ **答えのない状況を楽しみ、**
■ **自ら考え、自ら行動し、**
■ **他人とともに協調する豊かな人間力をもちながら、**
■ **よりよく解決していく、**

「生きる力」を育むことが重要です。

社会環境の変化②



新たな社会を形成する「社会人基礎力」

また、子ども時代だけでなく、社会人になった後も環境やライフステージに応じて常に学び続け、自らを振り返り、必要なスキルをアップデートしていくことが必要とされています。

その基礎となる力「社会人基礎力」を養っていくことが、新たな社会を形成する力として求められています。

≪経済産業省：人生100年時代の社会人基礎力≫

3つの能力	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力
12の能力要素	主体性、 働きかけ力、 実行力	課題発見力 計画力 想像力	発信力、傾聴力 柔軟性、状況把握力 規律性、ストレスコントロール力

社会環境の変化③

体験・学びの機会減少と孤立する子どもたち



急速な技術の進展により、私たちの生活はとても豊かで便利なものになってきました。

一方で、不便や困難の中で生まれる「なぜ？」に気づき、アイデアを出し合い、解決をしていく体験を大人も子どもも失ってきています。

また相次ぐ予測のつかない災害やウイルスの不安などの影響により、多様な人との関わりや子ども同士が思いのままに遊ぶ姿も減り、社会の中で子どもたちが孤立する環境も生まれてきています。

子どもたちが本来持つ創造性や突出した能力に気づき、子どもたちのSOSの声を見逃すことなく、未来への意欲を育む環境が必要とされています。

社会環境の変化④

こどもたちと向き合う大人のゆとりを

こうした中で、これまで教育を担ってきた学校、家庭、地域の構造も変化してきました。

家庭においては共働きやひとり親家庭が増えて忙しく、学校においては学校ばかりに学びを求められ、地域においては担い手が不足し、こどもに関わる大人にゆとりがなくなってきています。



学校

抱える課題の
複雑多様化など

- ・新学習指導要領への対応
（プログラミング、外国語等）
- ・新型コロナによる学びの変化
- ・ICT先端技術の活用
- ・特別支援教育の充実
- ・いじめ、虐待、不登校対応 など

家庭

教育ニーズの高まり、
教育格差など

- ・共働き、ひとり親家庭の増加
- ・都市部との教育格差
- ・家庭間の教育力・機会の格差 など

地域

担い手不足、
つながりの希薄化など

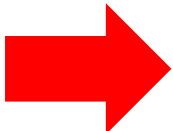
- ・核家族化、少子高齢化
- ・地域のとつながりの希薄化
- ・生活体験・体験活動の減少
- ・地域における多様な学びが不足など

問題認識



こうした社会環境の変化を捉え、以下のような課題が存在していると考えています。

1. 「生きる力」を育む多様な学びと一人でも多くの子どもたちがつながることが必要。
2. こどもの成長を家庭や学校が抱え込まず、社会全体で支える仕組みが必要。
3. 多様な学びを学校、家庭、地域が単独で創ることに限界があり、学びを共創していく関係づくりが必要。

 こうした問題を解決するため、新たに第4の存在として、「延岡こども未来創造機構」を設立し、関係機関と連携しながら取り組みます。

第2章 設立に向けた取組

【のべおかこども未来フォーラム2020】

「こどもたちに求められる力」 「機構が実施すべき事業」とは

【パネリスト (R2.2.15時点)】

親子をつなぐ学びのスペースリレート代表
隠岐國学習センター長
リクルートワークス研究所長
経済産業省 産業人材政策室長

中桐万里子氏
豊田庄吾氏
大久保幸夫氏
能村幸輝氏



「のべおかこども未来フォーラム2020」の結果の概要

機構の設立に向けたキックオフイベントとして、2020年2月15日に「のべおかこども未来フォーラム2020」を開催しました。

「こどもたちに求められる力」「機構が実施すべき事業」について、約100人の市民を交えて議論し、以下のような意見がまとめられました。

	こどもたちに求められている力（講演者） 学校・地域・家庭では、担いきれない課題とその原因（参加者）	講演者・参加者が考える 機構が実施すべき事業
講演者	<ul style="list-style-type: none"> ① 思考力、判断力、表現力と基礎知識や技能 ② 他者と関わりながら学ぶ協働性 ③ 答えのない状況を楽しみ、粘り強くトライ＆エラーを繰り返す力 ④ 学びに対する主体性・学び続ける、探求し続ける力 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校、地域、家庭の3者をコーディネートするつなぐ場所の提供（学校と一緒にあって共創） ② 子どもが多様な大人と関わる場の提供（大人も学ぶ場所） ③ 多様な判断軸の提供（自己肯定感や自己信頼感を育む） ④ 各種教育プログラムの試行を実施
参加者のアンケート結果	<p>【家庭環境・子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域からの家庭の孤立化 ② 保護者が親としての役割を果たしていない ③ 子どもの学力低下、欲求のなさ（やりたいことがない） <p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校への過度の依存（度を越えたクレーム、学校の忙しさ） ② 学校の画一的なプログラムと評価方法、管理過剰 <p>【地域・社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域と子供の関わり方の希薄化(子どもが地域の良さを知らない) ② 経済力による教育格差、情報格差（都会VS地方） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校、地域、保護者、他の市の機関などをつなぐコーディネーター（公教育、学校現場とのタイアップ） ② 様々な体験学習（職業体験、ボランティア、国際交流など） ③ プログラム教育、STEM教育 ④ 有名人、スポーツ選手、学識者等による講演会 ⑤ 保護者対象の子育て講演会、イベント



延岡こども未来創造機構 検討委員会



延岡こども未来創造機構 検討委員会について

延岡こども未来創造機構のあり方について検討するため、市内の有識者や教育・子育て関係者、公募委員など、多種多様なこどもに係る職業や事業などを行っている方々で構成する検討委員会を設置し、「のべおかこども未来フォーラム2020」で有識者等からいただいた意見を踏まえながら、以下のように議論をしました。

- 第1回：委員紹介、機構設立に向けた思いを話し合い、観点の整理、子どもに関わる課題やニーズの抽出。
- 第2回：学校、家庭、地域が抱える課題のさらなる深掘り。
- 第3回：課題の解決のために何をすべきか「大人の関わり」「こどもの体験活動」「教えること、育むことのサポート」の3つのテーマで分科会に分かれ、取り組むべき事業について議論。
- 第4回：引き続き3つのテーマ別に取り組むべき事業について議論し、整理。機構設立の拠点、法人としての運営形態について議論。

上記の4回を通じて、子どもたちを取り巻く課題やニーズが見えてくるとともに、本市に存在する様々な資源を活かした多様な学びへの期待と可能性が明確になりました。

今後、機構が市の施策の方針を踏まえながら判断し具現化していくこと、多くの方にご理解いただけるよう随時説明していくことが必要であると感じています。

また、検討委員会は、設立後も引き続き運営委員会として形を変えながら伴走し、機構が育っていけるようにモニタリング、助言をいただくこととしています。

延岡こども未来創造機構検討委員会

～①大人の関わり～

テーマ	NO.	課題・ニーズ	アイデアリスト
① 大人の関わり	1	<ul style="list-style-type: none"> ・関わり過ぎ・関わりなさすぎの2極化。 ・親の生きにくさを解決する必要がある。 ・大人が心の余裕をもてない。 	<p>【親学、父母講座】</p> <p>「失敗を受け入れ、こどもの自己肯定感を育むこと」、「こどもとの向き合い方」など、親向け講座や親子で学ぶ講座を開設。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会 ・親学講座＋大人のための読み聞かせ ・おやこの森やこども食堂と連携 ・同じ境遇（ひとり親、双子）などを共有できる会 ・家でもできるこどもの遊びづくりワークショップ
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な親になかなか届かない。 ・来てほしい人に来てもらえない。 ・コミュニケーションが不足している。 ・親子で一緒に楽しめる場の提供。 	<p>【まつりで親子ゲーム】</p> <p>短い時間でも親子が立ち寄れる場（のぼりざる物産展などイベントブース）を設けて、ゲームなどを通じて、親子のコミュニケーションの機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カタカナ禁止ゲーム ・ポジティブゲーム ・洗濯物干しゲーム ・親チーム×こどもチーム対戦ゲーム ・e-スポーツなど
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な大人を知る。 ・職業を知る。 	<p>【おしごと探求】</p> <p>様々な職業や取組をする大人を見学・インタビュー・知ることで、ロールモデルとして多様な生き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が普段行っているような場所で職業体験
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・親の仕事をしている姿を見せる。 ・親がどんな仕事をしているか知らない。 ・参観日を親と子を逆にしたら面白いのではないか。 ・学校の中で親がリモートで仕事をする姿 	<p>【私の職場参観日】</p> <p>夏休み期間を利用して、こどもたちが自分の保護者等の職場を見学する。昼食も親と一緒に取りながら、コミュニケーションを取る。機構は、職場と調整し、案内や送迎、仕事の調べ学習、自由研究等の手伝いを担う。</p>

延岡こども未来創造機構検討委員会

～②こどもの体験活動～

テーマ	NO.	課題・ニーズ	アイデアリスト
② こどもの体験活動	5	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことをこどもに聞いてみる。 	【こどもラボ】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生のやりたいことをカタチにするプロジェクト。 ・こどもアンケートの実施。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・食育、料理を通して自己肯定感を高める。 ・農家・漁師に来てもらって料理教室など。 ・料理は、STEAM的活動。 	【料理体験】 <ul style="list-style-type: none"> ・生産者から食材の魅力を聞き、その食材を使った料理教室。 ・旬や色合い、フードロスなど食を通じた学び。 ・こども食堂の活動を中学生が手伝う。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験をしたことがない人が多い。 ・気軽に体験できる機会があると良い。 	【自然体験】 <ul style="list-style-type: none"> ・一人でも多くのこどもが気軽に体験できるよう、機会を提供。 ・体験をきっかけに気づきや学びを深める。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸大と隠岐の島に延岡の子どもたちを留学させる。 ・自分が住む地域に対する誇りの養成ができるとうい。 	【地方留学】 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは市内留学。山の地域（北方町）と海の地域（北浦町）で交換留学。 ・全国の地方との”ちがひ”を見つけ、外から自地域を見る。 ・自地域に「あるもの」を探求し、自地域肯定感を育む。
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・力試しできるハレの場を設けて、失敗したり褒められたりする機会が必要。 	【ハレノヒバンク】 <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちが力試しできる大会など、ハレノヒ情報を集約。こどものチャレンジしたい気持ちと機会をつなぐ。 ・N-1グランプリ（オンライン吉本NSCなどの外部講師活用） ・e-スポーツ大会（場所、障がい関係なく） ・小説コンテスト（脚本家に見てもらおう）

延岡こども未来創造機構検討委員会

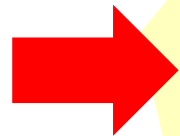
～③「教えること」「育むこと」のサポート～

テーマ	NO.	課題・ニーズ	アイデアリスト
③ 「教えること」 「育むこと」 のサポート	10	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を怖がる。 ・失敗を受け入れる環境があると良い。 	【延岡オーディション】 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルのない自分の得意を披露する場を提供。 ・自分だけの得意を見つめ、自分の良さを知る。 ・他人の得意を知ること、自分の可能性を見出す。 ・いい評価をもらえると延岡マイレージがもらえる。
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗から学んだり失敗を受け入れる環境 	【STEAMワークショップ】 <ul style="list-style-type: none"> ・STEAM教育を展開し、失敗と挑戦を繰り返しながら試行錯誤し、ものごとの仕組みを考え、課題解決に楽しみながらチャレンジする。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・近所に遊び相手がない。 ・遊び方を知らない。 ・異世代交流の機会が少ない。 ・おもいっきり遊べる場所がない。 ・公園でボールも使えない。 ・失敗しながら繰り返し取り組める場。 	【プレーパーク】 <ul style="list-style-type: none"> ・大人の見守りの中、好きに遊ぶ。 ・異学年のこどもが混ざってスポーツ。 ・地域の高齢者と昔遊び。 ・地域の理解を得て、見守りの下、ボールが使える時間設定を。 ・防災教育も兼ねた火起こし、たき火。
	13	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代交流の機会が必要。 ・語学でも失敗を恐れず向かっていく気持ちが必要。 ・若いうちから外国語など言語にふれることが大事。 	【イングリッシュキャンプ】 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活を通した生きた英語を楽しく学ぶ。 ・様々な年代の子たちが助け合いながら、英語のコミュニケーションを図る。
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では教えられる政治・経済をやってみては。 ・学校・家庭でもやりたいけど、できないことをやる。 	【ホームエコノミクス〇〇教育】 生活を中心とした身近な家政学から生きる力を育む。 <ul style="list-style-type: none"> ・金融教育 ・情報モラル教育 ・性教育 ・こども経済 ・こども政治
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちのはっきりする場所、居場所の提供。 ・中高生の遊び場がない。 ・自分のこどもに対しては厳しさや恥ずかしさがあるので、他所の大人が教えられる関係があるとよい。 ・中学生は、高校生など身近な世代の話に聞き入る。 ・高齢者との関わりも必要 	【ナナメのカフェ】 <ul style="list-style-type: none"> ・中高生の居場所づくり、拠点の運営。 ・異年齢のナナメの関係を通して、スポーツ、自主学習、コミュニケーション、ボードゲーム、地域の大人によるキャリア教育などを実施。

延岡こども未来創造機構検討委員会

～④全体に関わること～

テーマ	NO.	課題・ニーズ	アイデアリスト
全体に関わること	16	<ul style="list-style-type: none">・子育て情報が一本化されるとよい。・イベントが重複し、人集めに苦労している。	【子育て情報のプラットフォーム化】 <ul style="list-style-type: none">・子育て情報・イベント情報を集約し、一本化する。
	17	<ul style="list-style-type: none">・先生方の負担をカバーできるような仕組みが構築され、提供できると良い。	【学校支援】 <ul style="list-style-type: none">・学校のプログラム（社会見学、自然体験など）において、必要に応じて、地域内外の人、情報、資源の調達をサポートする。・地域おこし協力隊員による学校支援



これらの取組に加え、引き続き議論を重ねながら、
こどもたちに必要とされる学びを柔軟に検討してまいります。

これまでの取組

検討委員会での議論と並行して、延岡こども未来創造機構が設立した際に実施すべき事業をスタートアップ事業として実践しながら、現在の延岡市におけるニーズの確認や、運営におけるスキルアップを図ってきました。

2019年度

- 7.27 ①「STEAM教育」のスタート
7.28 NPO法人 東京学芸大こども未来研究所による教員向け・子ども向け研修会の開催
- 9.27 「国立大学法人 東京学芸大学」との包括協定の締結
- 9.28 ⑧造形デザインワークショップ
- 12.8 ⑤JFAこころのプロジェクト「夢の教室」
《北方学園中学校・三川内中学校・岡富中学校》
- 2.14 検討委員会準備会
- 2.15 「のべおかこども未来フォーラム2020」の開催
「東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 美術講座 環境・プロダクトデザイン研究室」の研修会

2020年度

- 8.19 ⑨オンライン社会見学
(岐阜市民間学童保育ヒトノネとオンライン交流 魚屋さん見学・インタビュー・ポスター制作)
- 11.7 ⑥イングリッシュキャンプ
11.21 (NOBEOKA世界村)
- 11.25 第1回検討委員会
- 11.29 ①STEAMワークショップ
NPO法人 東京学芸大こども未来研究所
- 12.8 ⑤JFAこころのプロジェクト
12.9 「夢の教室」
《北川中学校・島野浦中学校・南方中学校・南浦中学校》
- 12.12 ①STEAMワークショップ
NPO法人 東京学芸大こども未来研究所
- 3.9 第2回検討委員会

2021年度

- 6.5 第3回検討委員会
7.16 第4回検討委員会
7.31 ①STEAMワークショップ
NPO法人 東京学芸大こども未来研究所
- 8.9 ②グローバルコミュニケーション
9.8～ 東京学芸大学生インターンシップ
9.17
- 9.25 ④自然体験ワークショップ
11.6 ⑦グラフィック・ワークショップ
- 11.23 ⑥イングリッシュキャンプ
11.27 (NOBEOKA世界村)
- 12.8 ⑤JFAこころのプロジェクト
12.13 「夢の教室」
《南方中学校・北川中学校・西階中学校》
- 12.27 第5回検討委員会
1.8 テープワークショップ幼保向け
2.26 ③プレーパークの開催(延期)
- 3.19 ⑩中学生オンライン特別講座
3.24 ⑪非認知能力講座
3.29 法人設立

これまでの取組

STEAM

① STEAMワークショップ

東京学芸大学と連携して、STEAM教育を実施しています。子どもたちが楽しみながら試行錯誤を繰り返し、課題解決に向けて自ら最適な組み合わせを考え、主体的に学びに向かう力、活用力、失敗してもあきらめない力などを育みます。

ゴム動力カー

プログラミング

データサイエンス



様々なパーツを組み合わせて試行錯誤

乗りたい車を想像し、様々なパーツを組み合わせながら、自分だけの車を作りました。どうすれば早く走るか、坂を上りきれるか、何度も挑戦し改良を重ねていました。



社会の仕組みをひも解いて

信号機のプログラミングに挑戦。身近な信号機を想像しながら、安全に道路を渡るためにはどのように点滅させればよいかを考えながら、社会に役立つ信号機を作りました。



グラフを見比べてデータを分析

フードロス为主题に12枚のグラフを見比べ、傾向や原因、問題点などを分析し、どうすれば改善するのか、参加者同士で解決策を発表しました。

これまでの取組

②

グローバルコミュニケーション



異文化理解やコミュニケーションの大切さを学ぶ

ANA（全日空）グループの協力を得て、様々な国や地域の方とどのようにチームワーク良く仕事をしていくのか、コミュニケーションの違いから異文化理解の大切さを学びました。

③

プレーパーク



自ら遊びを生み出せる「遊びの達人」

子どもたちが自由にのびのびと遊べるよう大人の見守りの中、やってみたいことに挑戦できる環境づくりを行います。その過程で生まれる試行錯誤を通して子どもたちが自ら遊びを作りだせる、「遊びの達人」を育みます。

④

自然体験活動



延岡の自然・ふるさとの魅力体験

延岡ならではの自然環境を体験し、感動したり他者と共感する中で、自地域愛を育みました。また、魅力発信をテーマにコラージュ制作することにより、体験して得た感覚を表現し、まちの資源を探求するきっかけを提供しました。

これまでの取組

⑤ JFAこころのプロジェクト 「夢の教室」

夢を持つことの大切さ

JFA(日本サッカー協会)と連携し、様々な競技の現役/OB/OGのスポーツ選手などを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことの素晴らしさ、その夢に向かって努力することの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などを夢先生の体験談を通じて子どもたちに伝えました。



これまでの取組

⑥ イングリッシュキャンプ (NOBEOKA世界村)



生きた英語を学ぶ

一人でも多くの子どもたちに「英語が通じた」「外国の人とやりとりができた」という実体験を経験してもらうため、外国青年と制作活動や様々な体験活動を行い、日常生活に活かせるネイティブの英語に触れる機会を提供しました。

⑦ グラフィックワークショップ



自由に筆を動かし創作・表現する楽しさ

様々なモダンテクニックを使って自由に絵を描き、偶発的にできた抽象的な絵にストーリーをつけていく「絵モーショナルbook」を制作しました。言葉だけではない表現の楽しさを知り、また、様々な大人と関わりの中で、自らの表現を受け入れてもらう体験を通して、自己肯定感を育む取組を行いました。

⑧ 造形デザインワークショップ



多様な大人との協働

初めて会う大人と子ども同士が、コミュニケーションを取り、協力しあいながら、大きな造形物を作りました。

これまでの取組

⑨

オンライン社会見学



コロナ禍での学びを支える

延岡市の子どもたちと岐阜市の民間学童「ヒトノネ」の子どもたちがオンラインでつながり、岐阜市内の魚屋さんを社会見学しました。店主にインタビューし、お店の宣伝ポスターを制作し、岐阜市の子どもたちと作品を見せ合いながら交流を図りました。

⑩

中学生オンライン特別講座



日本一の走るティクトッカーが君たちに伝えたい成長の瞬間

プロランニングコーチであり人気インフルエンサーでもある三津家貴也さんを講師にお招きし、困難な環境を乗り越えて、自分らしく生きていくにはどうすればよいのか、皆で考える特別講座を開催しました。

これまでの取組

⑪

非認知能力講座



非認知能力は、社会で求められる力

コロナ禍において生徒同士の接触が減る中、学力などの数値化できる「認知能力」だけで自分を評価し、生きづらさを感じる環境が生まれています。

他者との協働やコミュニケーション、思いやりなど様々な人と関わる力である『非認知能力』の視点を知り、メタ認知や自己の強み等を理解することを目的に市内中学校で非認知講座を開催しました。

弘前大学の小田直弥助教からは、非認知能力の捉え方や社会で求められる力であること、ペルーの旅行会社UKHU Travelの丸石成吾さんからは、非認知能力を活かして海外で活躍されている実際の生活や思いについてお話いただきました。

アンケートの声（一部紹介）

（STEAMワークショップ）

- ・ あっという間の2時間でした。車を動かすために親子でこんなに必死になるとは想像していませんでした。とても楽しかったです。
- ・ 自分で考えさせ、失敗しても繰り返しチャレンジさせるのがいいと思いました。
- ・ また機会があれば参加させて頂きたい。
- ・ 教育に関して地方ではあまり情報がないなど、都市部との格差を感じる人が多いので、今回のように学芸大の先生方が来て下さるようなワークショップはとってもありがたいと思いました。また参加したいです！

（グラフィックワークショップ）

- ・ 大学の講義、作成に経験を娘とできたことがありがたいです。
できあがった物を通して娘の世界をのぞくことができ、その色使いの優しさを知り、嬉しかったです。
- ・ 1人1人話や絵に個性がでていて、楽しかった。美術の時間では今回のような絵は書けないので、新鮮だった。

（グローバルコミュニケーション）

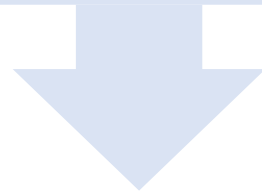
- ・ 思いやりの気持ちや仲間と協力して発表するというとても大事なことをたくさん知ることができました。

（オンライン社会見学）

- ・ めったにできない体験ができてよかったです。いろいろな人とも触れ合えるのでとても楽しかったです。
大勢の人に、オンラインで自分の気持ちを伝える、これからは、当たり前になってゆくであろうことを、娘が勉強する機会を与えてくださり、光栄です。また、わくわくする様な企画を心待ちにさせていただきます。

検討委員会からの意見とスタートアップ事業からの考察と方向性

- 1, 延岡こども未来創造機構は、類例はあるが、目指す事例がない。
- 2, 前例のないものをつくろうとしている。
- 3, 考えているだけでは、進まない。



進めながら、修正しながら、愉しみながら、学びながら、
地域の方々と機構を育て、創り続けていくことが必要。

法人設立へ

話すことができなかつた生徒が、リーダーシップを発揮したり、興味を示さなかつたこどもが目を輝かせて「もっとチャレンジしたい」と意欲を燃やしたり、気づかなかつた子ども的一面を親が知ることが出来たり。

これまでの取組を通して、変化のきっかけを掴む姿にたくさん出会うことができました。

今後、さらに多様な学びを実現していくためには、様々な地域の人材や資源、多様なアイデアが交ざり合い、時代のニーズに合った学びを共創していくことが重要だと考えています。

よりフットワーク良く、専門的な人材が入りながら活動を展開し、経験を蓄積することや、寄付など持続可能な体制を構築していくため、

2022年3月29日、「一般社団法人」として設立。

第3章 機構について

運営委員会

これまで機構設立に向け、議論を重ねてきた検討委員会のメンバーにアドバイザー6名を加えた運営委員会を設置し、多様な視点からこどもたちを取り巻く環境や課題、実践すべき取組について引き続き議論をし、機構の取組に反映していきたいと考えています（敬称略）。

委員長



東京学芸大学教授 鉄矢悦朗

アドバイザー



中桐万里子



豊田庄吾



大久保幸夫



能村幸輝



金子嘉宏



梅嶋真樹

委員

保育園、幼稚園、小中学校、キャリア教育、大学、子育て団体、民間企業創業者、保護者代表など
市内で教育・子育てに係る多種多様な職種や団体など 17名

アドバイザー – Adviser –

教育や人材育成を牽引する有識者にアドバイザーに就任していただき、機構の取組に対し助言をいただいています（敬称略）。



親子をつなぐ学びのスペースリレイト
代表
中桐万里子



海士町 人づくり特命担当 ひと・
学び・還流づくりジェネレーター
豊田庄吾



株式会社リクルートフェロー
大久保幸夫



経済産業省資源エネルギー庁
新エネルギー課長
（経済産業省前産業政策局産業人材課長）
能村幸輝



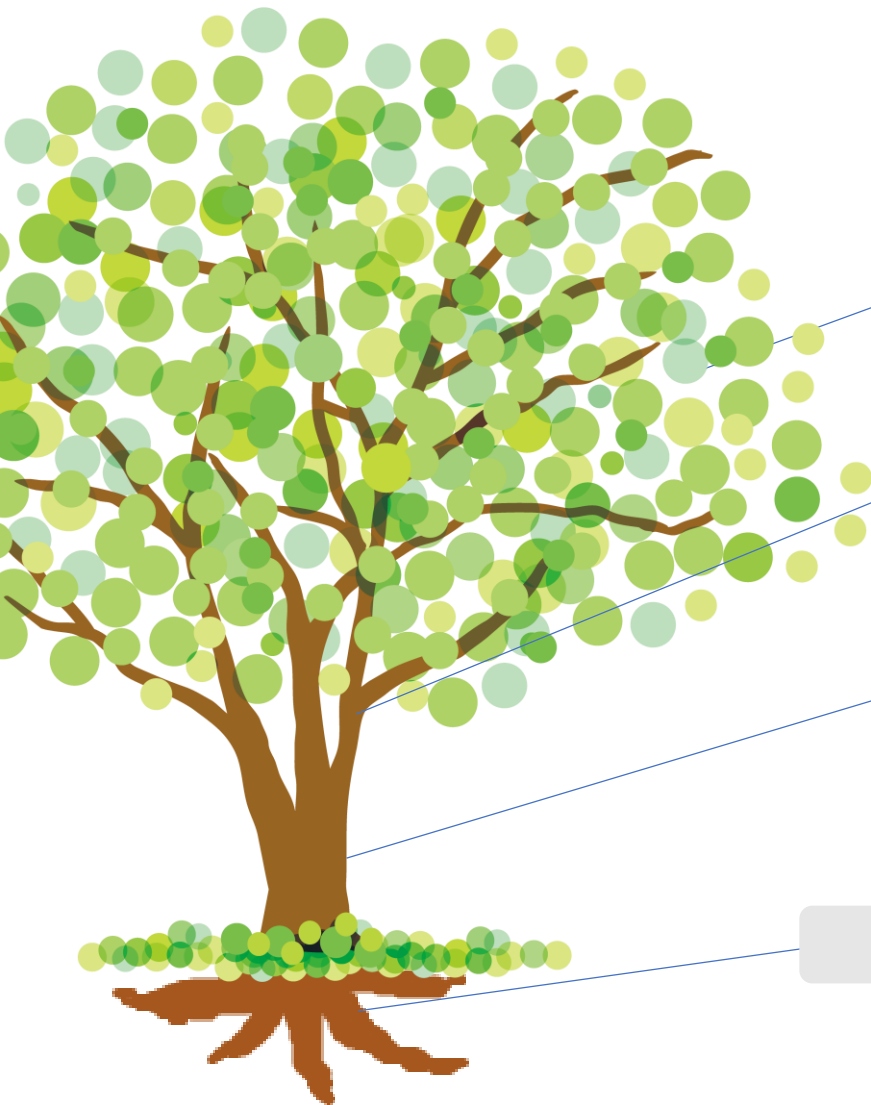
東京学芸大学教育インキュベーション
センター 教授
金子嘉宏



慶應義塾大学大学院政策メディア研
究科 特任准教授
梅嶋真樹

延岡こども未来創造機構の「考え方」

こどもたちとともに、まだ見ぬ世界を拡げて



プロジェクト

機構の姿を豊かな土壌に根を張る木のように描いています。

私たちの使命

「根」…地域と共感し、地域とともに子どもたちを育みたい想い、**理念**。

実現したい未来

「幹」…**実現したい未来**。

理念

「枝」…あらゆる可能性を信じ、一つ一つ着実に伸ばしていく**私たちの使命**。

「葉」…まだ見ぬ世界を拡げていく多様な**プロジェクト**。

理念 - Philosophy -

**「これからの未来を生きる子どもたちが、
本来持っている創造性やワクワクする感覚を輝かし、
自分らしく生きられる社会の実現」**

子どもたちは、赤ちゃんの時から家族や集団のなかで、「遊び」を通じて多くのことに気づき、自分を知り、仕組みを学んでいきます。

「遊び」の中では、友達とぶつかることも。それでも友達を理解し、人間関係を学び、また「遊び」を共創する。

遊びの中で子どもたちの人間力も育まれています。

「なんで？」、「これって面白いかも！」

毎日が発見と笑顔と挑戦であふれていたら、どんなに楽しいのでしょうか。

「子どもたちには、本来持つ創造性やワクワクする感覚を輝かし、自分らしく生きてほしい。」こうした想いを地域と共感し、延岡ならではの環境を活かした学びの場を創っていきたいと考えています。

実現したい未来 – *Vision* –

どんな時代でもよりよい生活や社会になるよう、
自らデザインし問題を解決できる 「生きる力」 を育む。

私たちの使命 – *Mission* –

子どもたちのあらゆる可能性を信じ、今後ミッションが増えていくことを想定しながら、まず以下のミッションからスタートし展開していきたいと考えています。

MISISON 1
「遊びと学び」 子どもたちの意欲を引き出し、伴走しながら子どもたちが、安心してのびのびとチャレンジできる学びの場を創出する。

MISISON 2
「共育」 大人も子どもも学び合い、社会全体で子どもたちの学びを担保する仕組みを創出する。

MISISON 3
「体験」 延岡ならではの魅力や環境を活かした体験の機会を地域と共創する。

これらを具体的に実現するため、次のプロジェクトに取り組みます。



Mission

遊びと学び プロジェクト

1



「子どもたちの意欲を引き出し、
伴走しながら子どもたちが安心して
のびのびとチャレンジできる
学びの場を創出する。」

子どもたちの学び方にも個性があります。
個別の子どものニーズやテンポに寄り添い、
自分の興味のあること、ワクワクすることに
挑戦できる学びの場を創出します。

また、意欲や創造力を育むことにより、主
体的に学びに向かう力や学力の向上にも貢献
します。

具体的活動方針

- ・ **STEAM**ワークショップなど
各種ワークショップ
- ・ 日本サッカー協会「夢の教室」
- ・ プレーパーク
- ・ **論理コミュニケーション**など



育む力：

「答えのない状況を楽しみ、粘り強くトライ&エラーを繰り返す力」

「思考力、判断力、表現力」

「学びに対する主体性・学び続ける、探求し続ける力」など



論理コミュニケーション

～求められる思考力、判断力、表現力～

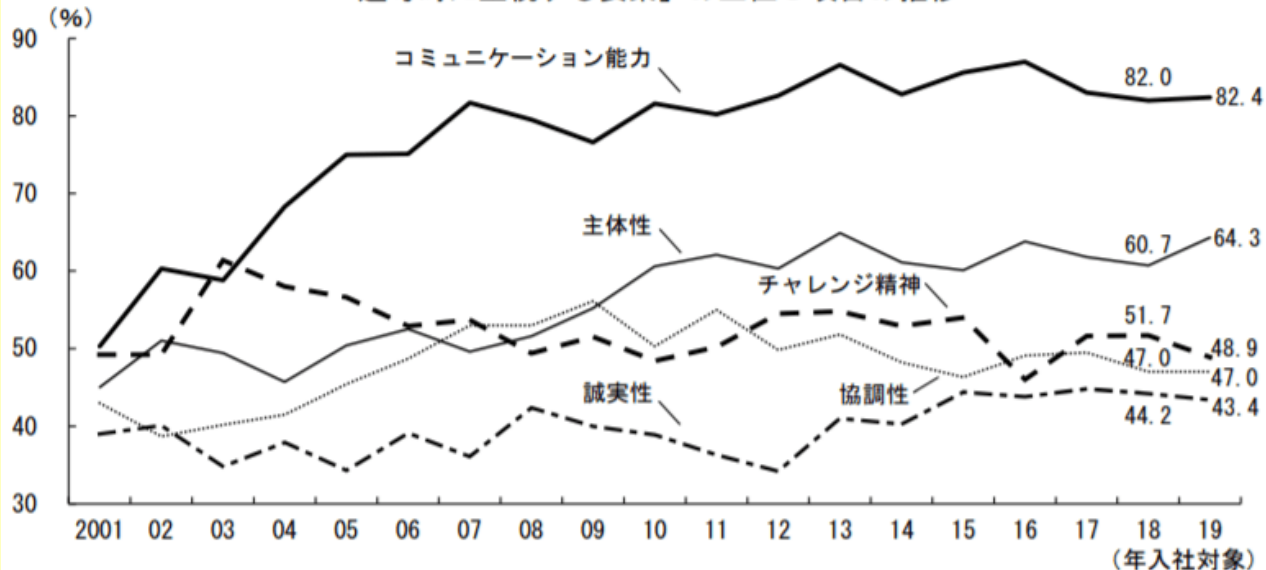
キャリア教育では、コミュニケーション力育成が社会要請

近年、企業においては、他者と関係を構築することや自分とは異なる意見を持つ人であっても、納得してもらえるコミュニケーション能力等を求めています。

論理コミュニケーションとは

こうした社会で求められるコミュニケーション能力を「聴く力」「構築する力」「伝える力」の3つの力に定義し、相手が何を言いたいのか整理し、自分の意見を考え、相手に分かりやすく伝える力を育むことができるプログラムです。（延岡市と連携協定を締結している慶應義塾大学SFC研究所が開発した科目です。）

「選考時に重視する要素」の上位5項目の推移



日本経済団体連合会「2018年度新卒採用に関するアンケート調査結果」

論理コミュニケーション

～市内中学校でのモデル事業～



令和3年4～7月の期間、教育委員会では、延岡中学校にて同時双方向遠隔授業を活用し論理コミュニケーション授業を実施しました。

延岡の子どもたちの長年の課題として「コミュニケーション力」をもっと身につけることが必要とされていますが、この「論理コミュニケーション」により、将来どんな分野に進んでも必要となる力が身につくこととなります。

なお検定の結果、苦手克服の効果が表れており、今後延岡子ども未来創造機構では、中学生だけでなく高校生にも機会を提供することなどを考えています。

■延岡中学校での論述力検定の結果概要（一部抜粋）

重点評価項目	目標	達成者	
		第1回	第2回
出した根拠に対して十分な数の事例を出しているか	合格者 3割	1%	27%
構成の最上段に、今回選んだ意見を一つ書いているか	合格者 7割	53%	66%

Mission

2

共育 プロジェクト



「大人も子どもも学び合い、社会全体で子どもたちの学びを担保する仕組みを創出する。」

子ども同士の関わりには、年齢に関係なく自然と育み合いが生まれ、また子どもたちの存在によって、大人にも気づきや学びが生まれます。

これまで以上に多様な大人や異年齢の子どもたち同士が互いに学び合う場を創出し、地域の大人が先生役になったり、地域の多様な学びと子どもたちがよりつながりやすくなるように貢献します。

また、地域の大人が、子どもたちの失敗や挑戦を受け入れる地域づくりにも取り組みます。

具体的活動方針

- ・ グローバルコミュニケーション
- ・ 子どもたちの自己肯定感を育むための親の学び
- ・ 各種講演会やワークショップ
- ・ 教育関係者のネットワーク構築 など



育む力：
「他者と関わりながら学ぶ協働性」
「子どもたちの自己肯定感」など



こころの土台「自己肯定感」

挑戦 意欲



自己肯定感

夢 仲間を大切に



自己肯定感

自身を肯定的に捉えることが難しい環境

内閣府が公表する「子供・若者白書」では、日本の若者は、諸外国の若者と比べて、自身を肯定的に捉えている者の割合が低い傾向にあり、またそれは「自分が役にたたない」と感じる自己有用感の低さが関わっている現状が公表されています。

「私は私でいいんだ」

せきしょうだい
～積小為大～

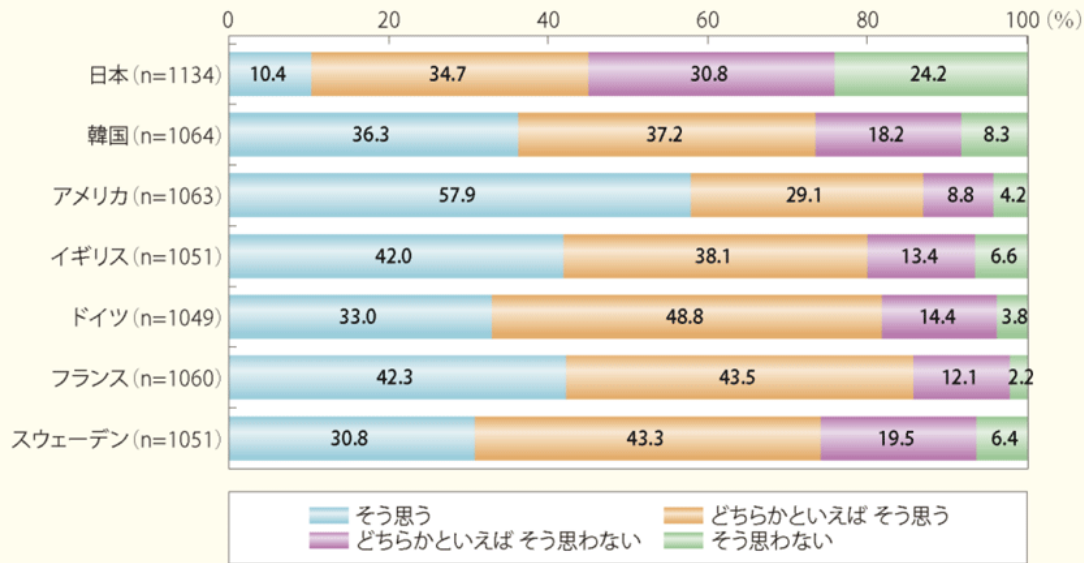
一つ一つの小さな達成感の積み重ねが大きな自信になったり。子どもたちが小さな発見や頑張り手伝いをしたことを、周りの大人が気づいてあげられたり認められたりすることで大きな育ちになります。

「何ができてない」ではなく、「何ができているか」、小さなことでもちゃんと大人が受け止めていることで、「私は私でいいんだ」という自己肯定感を育みます。

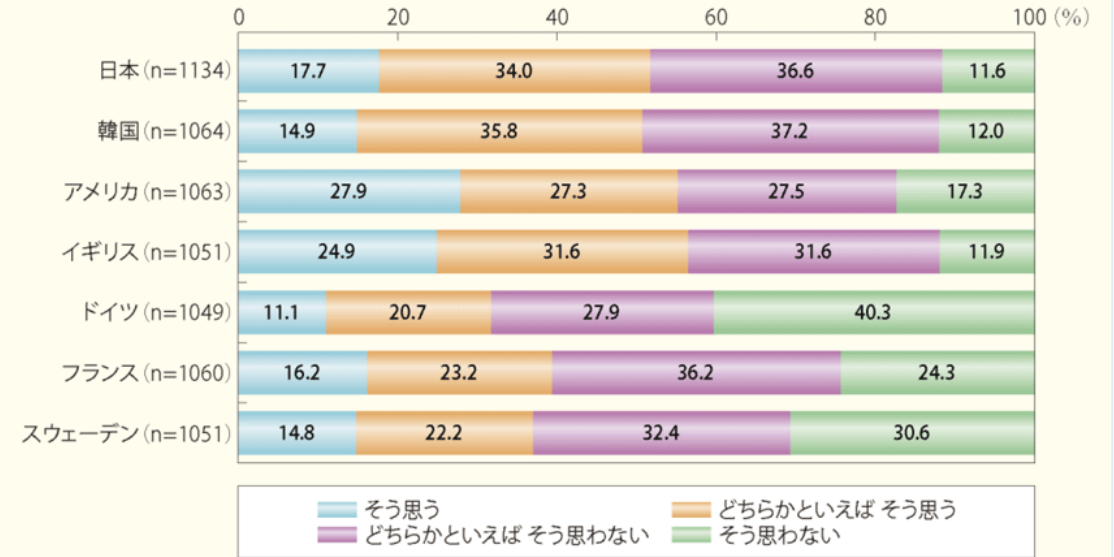
【資料】
 平成30年度子供・若者白書
 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」

図表3 自分自身に満足している

(a) 諸外国比較



図表5 自分は役に立たないと強く感じる





Mission

体験 プロジェクト

3

「延岡ならではの魅力や環境を活かした 体験の機会を地域と共創する」

多様で豊かな自然環境やそこから生まれた歴史文化。数々のアスリートを輩出してきたスポーツのまち。たゆまぬ努力によって世界一の技術を生み出してきたものづくり。

延岡ならではの、環境を活かした様々な体験の機会を地域と共創します。

また、その体験を通じて地域愛を育むとともに、探求的な学習にも取り組むことで、自分の「こうありたい」という姿を描き、よりよく課題を解決する意欲を育みます。

具体的活動方針

- ・ 自然体験活動
- ・ イングリッシュキャンプ
- ・ 料理体験
- ・ おしごと探求 など



育む力：

「他者と関わりながら学ぶ協働性」

「学びに対する主体性・学び続ける、探求し続ける力」など

子どもの数だけ答えがあるかもしれない。

答えの数だけ未来があるかもしれない。

未来への挑戦を

延岡こども未来創造機構が始めます。

アクセス MAP



→ 一方通行

子どもたちとともに、まだ見ぬ世界を拓げて
一般社団法人
延岡子ども未来創造機構

〒882-0054
住所：宮崎県延岡市栄町5番地1

電話：080-2149-6563

E-mail：k-mirai@ma.wainet.ne.jp